

おおいた大友学オンラインセミナー・  
戦国史シンポジウム in BVNGO(豊後)

# 戦国大名と 鉱物資源

硫黄  
大名

大友・島津

VS.

銀  
大名

毛利・豊臣・徳川

資料集

主催：大分市、大分市教育委員会

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「学際的手法による中・近  
世日本のサルファーラッシュ・シルバーラッシュの比較総  
合研究」(代表：鹿毛敏夫)

大分市教育委員会

# 戦国大名と鉱物資源

**硫黄大名** 大友・島津 VS. **銀大名** 毛利・豊臣・徳川

日時 令和3年 3月7日(日) 10:30~15:30

場所 コンパルホール 1F 文化ホール

## シンポジウムの趣旨

14~17世紀の日本で盛んに採掘が進み、遣明船や朱印船、中国人商人によるジャンク船、あるいは南蛮船に積み込んで東アジア諸国に大量に輸出した鉱物資源に、「硫黄(サルファー)」と「銀(シルバー)」がある。

特に硫黄は、中世から近世初頭にかけての豊後(大分)と薩摩(鹿児島)で採掘され、国内はもとより宋・明や朝鮮、東南アジア諸国に大量に輸出され、その産地は「サルファーラッシュ」の様相を呈した。豊後硫黄と薩摩硫黄は、大友氏・島津氏という戦国大名権力の重要な経済基盤になったと考えられるが、遺跡として残りにくい硫黄鉱山の特性のため、その産地の実態や国内流通、東アジア諸国への貿易構造についてはこれまでほとんど明らかにされていなかった。

一方、銀に関しては、世界遺産に登録された石見(島根)銀山を中心として、近年、その研究は著しい進展を見せた。石見における16世紀半ばからの銀の産出と流出は、日本海海域の様々な経済関係を大きく変化させ、都市に集散する膨大な物資を生み出して、地域社会全体に多大な影響を及ぼした。「シルバーラッシュ」とも言えるこの経済現象に着目した毛利・豊臣・徳川の諸大名はその産地を直轄化して収益を独占し、また、銀を国際通貨とする東アジアの貿易構造に連動する形で日本社会は劇的な変化を遂げた。

## 日程

基調講演30分&「ミニレクチャー25分×2名+討論10分」×3ラウンド

10:30~10:50 開会行事

総合司会

園田節子(兵庫県立大学)

鹿毛敏夫(名古屋学院大学)

10:50~11:20 基調講演

「戦国大名と鉱物資源—硫黄大名VS.銀大名—」鹿毛敏夫

11:20~12:20 第1ラウンド「硫黄と銀の国際環境」

「日本列島の硫黄とアジアにおける<硫黄の道>」山内晋次

「戦国武将たちの南蛮船誘致合戦:銀の島日本に関する情報から」岡美穂子

12:20 休憩(60分)

13:20~14:20 第2ラウンド「硫黄山・銀山の考古学」

「石見銀山遺跡の発掘調査と整備事業」遠藤浩巳

「堺環濠都市遺跡から出土した豊後産の硫黄」續伸一郎

14:20~15:20 第3ラウンド「サルファーラッシュ・シルバーラッシュの産地と社会構造」

「『戊子入明記』と「硫黄の道」」伊藤幸司

「近世初期石見銀の産地と産業」仲野義文

15:20~15:30 総括・閉会あいさつ

坪根伸也(大分市教育委員会文化財課)

同時開催 | パネル展示

豊後硫黄山と石見銀山

# 目次

## 基調講演

- 「戦国大名と鉱物資源—硫黄大名VS.銀大名—」…………… 1  
鹿毛敏夫 (名古屋学院大学国際文化学部教授)

## 第1ラウンド

### 硫黄と銀の国際環境

- 「日本列島の硫黄とアジアにおける〈硫黄の道〉」…………… 5  
山内晋次(神戸女子大学文学部教授)
- 「戦国武将たちの南蛮船誘致合戦：銀の島日本に関する情報から」…………… 9  
岡美穂子(東京大学大学院情報学環准教授)

## 第2ラウンド

### 硫黄山・銀山の考古学

- 「石見銀山遺跡の発掘調査と整備事業」…………… 13  
遠藤浩巳(大田市教育委員会石見銀山課)
- 「堺環濠都市遺跡から出土した豊後産の硫黄」…………… 21  
續伸一郎(堺市博物館学芸課)

## 第3ラウンド

### サルファーラッシュ・シルバーラッシュの産地と社会構造

- 「『戊子入明記』と「硫黄の道」」…………… 29  
伊藤幸司(九州大学大学院比較社会文化研究院教授)
- 「近世初期石見銀の産地と産業」…………… 33  
仲野義文(石見銀山資料館館長)

## 【資料】

- 日本と世界の硫黄山・硫黄鉱山跡…………… 37